

証券コード：3156



株式会社UKCホールディングス  
**株主様へのご案内**

**2014年3月期(第5期)**  
2013年4月1日~2014年3月31日

特 集

- ▶中長期的な会社の経営戦略……………p.2
- ▶第4期(2013年3月期)株主様アンケート結果 ……p.5
- ▶自社工場によるEMS事業の拡大 ……………p.5

経営理念

私たちは  
**United  
Knowledge  
Company**  
です。

私たちがUKCグループに集うのは、私たち一人一人の持つ知識や経験、能力を一つにより合わせることにより、これを思ってもみなかった大きな力とすることができるからです。

その結果、私たちの得意とするエレクトロニクス分野で、お取引様のお役に立ち、ひいては社会・世界の発展に貢献できれば、これ以上の喜びはありません。グループにいる一人一人が思う存分その能力を発揮し、いつも笑顔で仕事ができるよう、そう私たちは願っています。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素からの皆様のご支援、ご高配に心より厚く御礼申し上げます。

2014年3月期における当社グループは、海外のスマートフォンやデジタルスチルカメラ向けの半導体及び電子部品の販売並びに自社工場におけるEMS(電子機器受託製造サービス)を中心に事業本体は順調に推移し、売上高は3期ぶりに3,000億円を上回ることができました。その一方で、海外の売掛金に対して計上した貸倒引当金の影響で営業利益、経常利益、当期純利益とも前年度を下回りました。同売掛金につきましては引き続き回収に注力しております。

当社グループは、ソニー製イメージセンサー、海外製タッチパネル、中小型液晶といった競争力の高い映像関連の商材を強固・広範な顧客層に提供することで成長してまいりました。近年、その映像関連の市場は大きな転換期を迎えております。コンパクトデジタルスチルカメラはスマートフォンにその市場を侵食され、一眼レフカメラは成長の鈍化に直面しています。スマートフォンの市場は引き続き成長していますが、中国市場の拡大、中国メーカーの台頭が顕著になっています。また、新しい製品として、時計型や眼鏡型のウェアラブルデバイスが実用化され、その市場が立ち上がりつつあります。

このような環境下、当社グループは、強みである映像関連分野において、引き続きあらゆる成長の機会



代表取締役社長

福 寿 孝 男

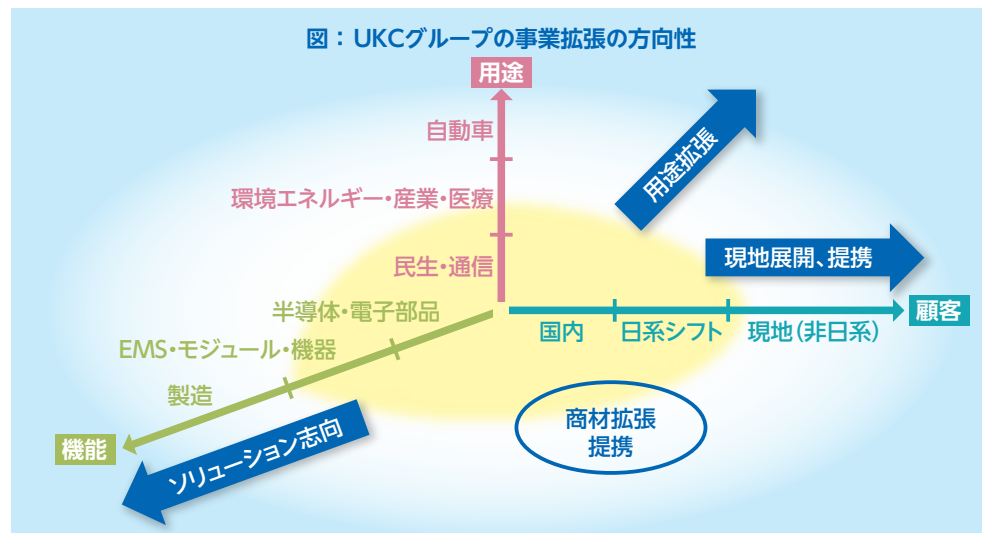
を模索・実現するとともに、中期的に市場の成長が期待できる環境・エネルギー分野や自動車分野での取り組みを強化してまいります。その一環として、窒化ガリウム(GaN)パワー半導体のトップランナーである米国トランスフォーム社やビジュアルコンピューティングを事業の核とするデジタルメディアプロフェッショナル社との資本業務提携を開始しております。今後も、メリハリをきかせた自社経営資源への投資とともに当社グループの強みを補完する他社との提携の機会を模索してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 中長期的な会社の経営戦略

当社グループが属しておりますエレクトロニクス業界は、自動車等と並びグローバル化が最も進んでいる業界の一つです。テクノロジーが日進月歩で進化していく中、マーケットの遷移、メーカーの盛衰等が地球規模で起こっています。近年は特にこれまで市場を牽引してきた先進国市場の成熟化、停滞の一方で、中国やインドに代表される新興国の消費市場の拡大と製造業の興隆が顕著になってきています。経済構造改革に伴う新興国の一時的停滞は予見されるものの、この傾向は不可逆的に今後も継続していくものと考えます。

このような事業環境下、当社グループは継続的な成長と企業価値向上を図ることで、グローバルな市場においても存在感をより高め、エレクトロニクス業界のメガディストリビューターに肩を並べる企業となることを目指しております。その目標を達成するには、顧客、用途、機能等のあらゆる面で当社グループの事業領域を拡張することが不可欠と考えております（図）。



### 事業拡張に向けて

当社グループは、海外シフトを含む日本・韓国メーカーを顧客とした民生・通信用途の半導体・電子部品販売、電子機器販売、EMS事業を主たる事業領域として

きました。中期的に事業領域を以下の各軸で拡げていくことで、利益を伴う成長の実現を図ります。

#### 顧客軸

近年は、国内顧客に加えて、特にスマートフォン用途の韓国顧客向けが当社グループの成長の牽引役となりました。しかしながら、市場の成長トレンドを考えると、今後は中国、アセアン、南アジアが主戦場となります。当社グループは、自社経営資源の活用とともに、M&Aを含む幅広い事業提携により、成長地域の現地顧客（メーカー）への販路を広げてまいります。また、国内においても、開拓余地のある産業機器分野（電源、インバーター、ロボット等）の顧客を獲得していきます。日本、韓国、中国、アセアン（南アジア含む）の四極事業体制を敷くことに加えて、同時並行的に各市場にフィットしたキラー商材の開拓も進めてまいります。

#### 用途軸

当社グループのこれまでの成長の牽引役はレンズ交換式デジタルスチルカメラやスマートフォンでした。今後はスマートフォンやその延長線上にあるウェアラブル等のスマートデバイスに加えて、成長が期待できる環境・エネルギー、自動車、医療等の市場を開拓する必要があります。自動車市場では、先進運転支援システム（ADAS）や自動運転の分野が中長期的に大きく伸長することが予測されるため、同分野にフィットする商材の開拓や事業提携等を早期に行ってまいります。

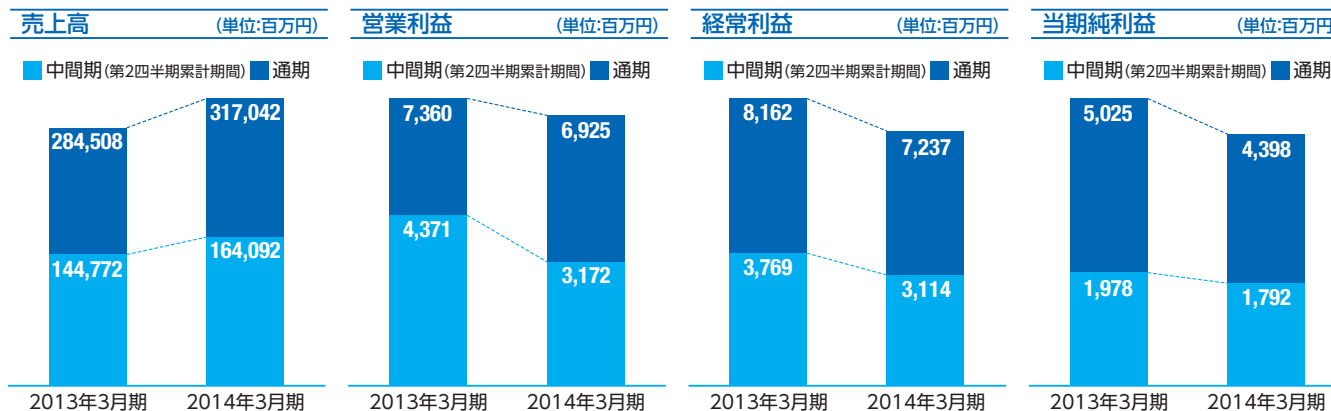
#### 機能軸

当社グループの売上高の9割以上を占める半導体・電子部品事業は主に物販とそれに必要な技術サポート、並びにEMS事業で構成されています。顧客の利便性を考慮すると、今後は個別商材の販売やその組み合わせにとどまらず、顧客のニーズを総合的に満たすシステム化（ソリューション化）が重要と考えています。その実現に向けて、当社グループの経営資源を補完するハード・ソフトウェア技術やサービスを外から積極的に取り入れてまいります。

# UKCグループの業績をご報告します

科目	前期 2012年4月1日から 2013年3月31日まで	当期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで	前年同期比 (増減率)
売上高	284,508	317,042	11.4%
営業利益	7,360	6,925	△5.9%
経常利益	8,162	7,237	△11.3%
当期純利益	5,025	4,398	△12.5%
1株当たり当期純利益(円)	320.14	280.21	—

科目	当期 2013年4月1日から 2014年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,026
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,245
現金及び現金同等物の期首残高	10,561
現金及び現金同等物の期末残高	15,829



## 前年同期比+325億円

スマートフォン向けイメージセンサー、タッチパネル等の販売増や自社工場におけるEMS事業の増収が貢献。その一方で、デジタルスチルカメラ向けは市場の停滞により減収

## 前年同期比△4.3億円

連結子会社において計上した貸倒引当金(10.9億円)、円安に伴う海外拠点SGA増加等により、営業利益は前期比減。貸倒引当金については、相手先及びその代表者に対する訴訟提起等、売掛金の回収に向けた取り組みを継続

## 前年同期比△9.2億円

営業利益減に加えて、為替差益の減少(8.9億円⇨3.7億円)により前期比減

## 前年同期比△6.3億円

前期計上の退職特別加算金の影響(5.0億円)は剥離も、SGA大幅増の影響は吸収できず、前期比減

科目	当期末 2014年3月31日現在
総資産	118,436
負債	68,010
純資産	50,425
自己資本比率(%)	42.2
1株当たり純資産(円)	3,186.08

## UKCグループのセグメント別業績状況（第5期）

UKCグループは、業界トップの売上規模を誇るエレクトロニクス商社です。

事業セグメントは、イメージセンサーやタッチパネル及び液晶パネル関連部材の取扱いを中心とする半導体及び電子部品事業、放送用カメラをはじめとする業務用製品の取扱いを中心とする電子機器事業、NFC※・フェリカ対応の非接触ICカード関連製品の取扱いを中心とするシステム機器事業、の3部門に分かれます。競争力のあるこれらの取扱い製品に、専門エンジニアリング組織によるきめ細かな技術サポート、EMS（電子機器受託製造サービス）、半導体・電子部品の信頼性試験や環境物質分析サービスを組み合わせることにより、お客様に満足いただけるソリューションを提供しております。

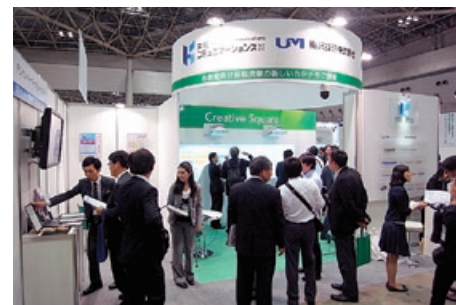
※Near Field Communication：近距離無線技術の国際標準規格。ソニー規格フェリカとの下位互換性を持つ。

### 電子機器事業

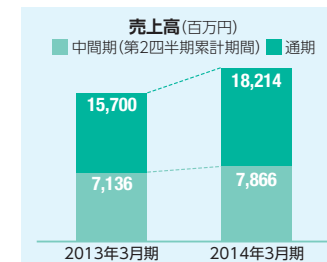
売上高構成比 **5.7%**

#### 事業セグメント業績状況

電子機器事業におきましては、景気刺激策の効果等により、年度を通じて顧客の設備投資に改善傾向が見られ、一般企業向け、監視カメラ顧客、教育機関、医療向け等幅広い分野で売上が伸びました。以上の結果、売上高は182億14百万円（前年同期比16.0%増）、セグメント利益は4億62百万円（前年同期比112.4%増）となりました。



5月に開催された「第5回 教育ITソリューションEXPO」に共信コミュニケーションズ(株)が出展



### 半導体及び電子部品事業

売上高構成比 **93.5%**

#### 事業セグメント業績状況

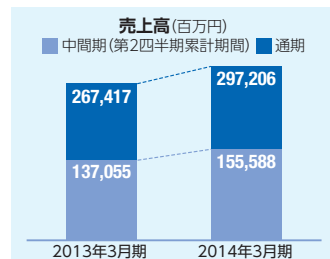
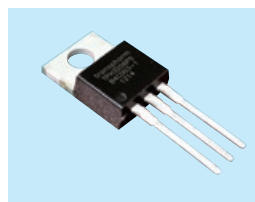
半導体及び電子部品事業におきましては、主にスマートフォン向けのイメージセンサー、タッチパネルの販売や自社工場におけるEMS事業が好調であったことにより、売上、売上総利益ともに伸びました。

しかし、当連結会計年度に計上しました貸倒引当金10億90百万円の影響により、セグメント利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は2,972億6百万円（前年同期比11.1%増）、セグメント利益は64億51百万円（前年同期比7.8%減）となりました。

Transphorm社製  
GaNパワー半導体

GaNパワー半導体は、GaN(窒化ガリウム)の優れた材料特性により、従来のシリコン製と比較して、「低電力損失」、「小型化」といったメリットを搭載機器にもたらします。



### システム機器事業

売上高構成比 **0.8%**

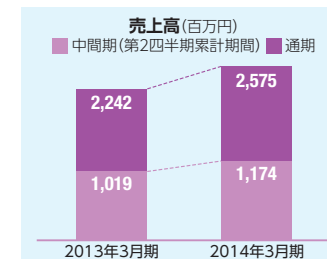
#### 事業セグメント業績状況

非接触ICカード関連事業におきましては、デジタルサイネージや電子マネー関連ビジネスの活性化に伴い、売上、利益ともに伸びました。その一方で、半導体及び電子部品の信頼性試験・環境物質

分析サービス事業におきましては、試験数の減少に伴い、業績は低調に推移いたしました。以上の結果、売上高は25億75百万円（前年同期比14.8%増）、セグメント利益は1億91百万円（前年同期比17.5%減）となりました。

UFT-N151M(WU)

フルカラーLCDを搭載したUSBリーダー/ライター端末です。電子マネー用途で採用実績があり、豊富なユーザーインターフェースで“かざす”をサポートします。





## トピック1 第4期(2013年3月期)株主様アンケート結果

第4期(2013年3月期)株主様へのご案内に同封いたしました「株主アンケート」に、数多くの株主様よりご回答を頂戴しました。お忙しい中ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

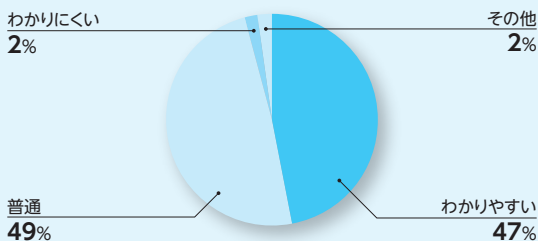
以下に、今回の「株主アンケート」の結果の一部をご紹介します。

## 第4期(2013年3月期)「株主アンケート」概要

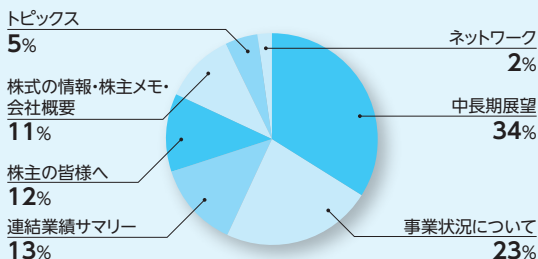
アンケート方法：冊子「株主様へのご案内」にアンケートはがきを同封して実施

アンケート対象人数(単元株主数)	4,821名
アンケートご回答数	716名
アンケートご回答率	14.9%

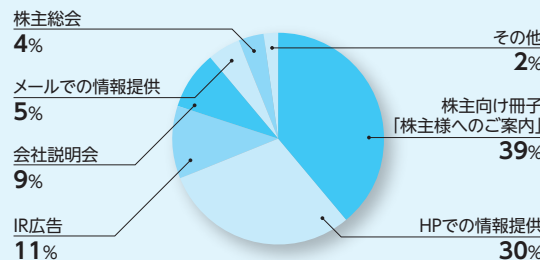
## Q.当冊子のわかりやすさは?



## Q.当冊子で興味を持った内容は何か? (複数回答可)



## Q.当社のIR活動において、特に充実を希望するものは何ですか?(複数回答可)



## 皆様からいただいたご意見・ご要望(一部抜粋)

- トップメッセージを投資の参考にしています。極力、本音・想いというのをもっと語ってもらえるとありがたいです。(30代、男性)
- 社員の仕事内容の紹介があってもいいと思います。(30代、男性)
- 業績への努力、リカバリーもあり安心して長期保有できる。今後もより一層の繁栄を期待する。(60代、女性)
- より一層の経営努力と、その結果が株価に反映することを期待します。(60代、女性)
- 「株主様へのご案内」は確かにわかりやすいが、もっと詳しくしてほしい。事業内容がよくわからない。(40代、男性)
- 海外戦略を特集してほしい。(60代、男性)
- もっと知名度アップを図るためPR活動をしてほしい。(40代、女性)
- 今後もアンケートを通じて株主とのコミュニケーションを図ってほしい。(20代、男性)

株主の皆様から頂戴しました貴重なご意見を活かし、さらなる企業価値向上及びIR活動の充実に向け努力してまいりたい所存です。

今後も、株主の皆様とのより良いコミュニケーションの実現を目指し、定期的にアンケートを実施していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## トピック2 自社工場によるEMS事業の拡大

当社は自社工場によるEMS(電子機器受託製造サービス)を高付加価値事業の一つとして強化してまいりました。当社の自社EMS事業は、2004年9月に韓国にて当社経営統合以前の株式会社ユーエスシーと日本ケミコン株式会社が合併でCU TECH CORPORATION(CU TECH)を設立したことにさかのぼります。

当初は持分45%の少数株主(日本ケミコンが55%保有)として経営に参画していましたが、2010年10月に当社持分を70%に増やすことで子会社化し、2012年3月期からその売上が当社連結業績に貢献をはじめました。2012年9月には当社の完全子会社(持分100%)としました。

また、オペレーションに関しては、顧客の中国シフトに歩調を合わせ、2010年にCU TECHの子会社として中国広東省東莞市に東莞新優電子有限公司(東莞CU TECH)を設立しました。東莞CU TECHは、その11月にはSMT(高精度表面実装)8ラインで操業を開始し、以来当社の主力EMS工場として成長を続けてきました。東莞CU TECHは、主にサムスンディスプレイ社向けにスマートフォン、タブレット端末用液晶(有機EL)モジュールを製造しています。サムスン電子のモバイル事業拡大に伴う旺盛な需要に合わせて、SMTラインを継続増設し、2014年6月現在で計14ラインが稼働しています。当社グループの中で最も国際化が進んでおり、中国人、韓国人、日本人が協業し、働き甲斐のある職場(GPTW: Great Place to Work)作り、製造技術・製造品質の向上を目指しています。2015年3月期は200億円を超える売上高を計画しており、引き続き顧客や扱い品目を増やすことによる業績拡大を図ってまいります。

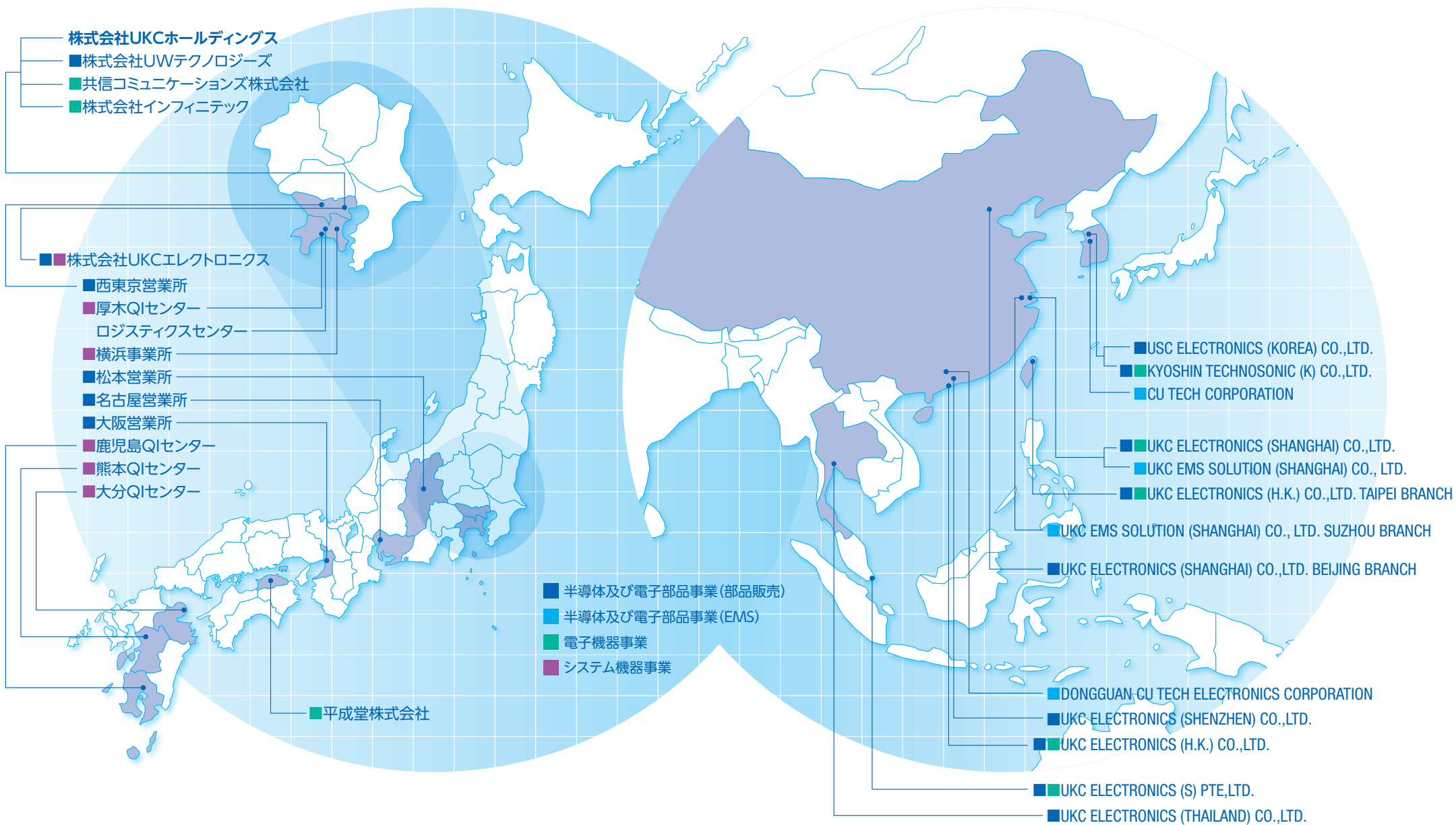
## 東莞CU TECH業績推移

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
売上高	62億円	113億円	165億円
SMTライン数(期末)	12ライン	12ライン	14ライン
従業員数(期末:臨時込)	558人	607人	874人



国内

海外



## 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号	株式会社UKCホールディングス (英文名：UKC Holdings Corporation)																
本社	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー15階 TEL 03-3491-6575 FAX 03-3491-7825																
設立	2009年10月1日																
資本金	43億83百万円																
事業内容	各種半導体・電子部品、電子機器、システム機器販売事業、半導体等の信頼性試験・環境物質分析サービス及び、EMS事業等を営むこと、並びにこれらの事業を営む会社の株式又は持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配・管理すること																
従業員数	単体57名 連結1,402名																
取締役及び監査役 (2014年6月27日現在)	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>福寿 幸男</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>田口 雅章</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>小島 茂</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>山下 隆明</td> </tr> <tr> <td>取締役(社外)</td> <td>大根田 伸行</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>森田 清文</td> </tr> <tr> <td>監査役(社外)</td> <td>秋山 治一</td> </tr> <tr> <td>監査役(社外)</td> <td>松村 幸祐</td> </tr> </table>	代表取締役社長	福寿 幸男	取締役副社長	田口 雅章	取締役副社長	小島 茂	取締役	山下 隆明	取締役(社外)	大根田 伸行	常勤監査役	森田 清文	監査役(社外)	秋山 治一	監査役(社外)	松村 幸祐
代表取締役社長	福寿 幸男																
取締役副社長	田口 雅章																
取締役副社長	小島 茂																
取締役	山下 隆明																
取締役(社外)	大根田 伸行																
常勤監査役	森田 清文																
監査役(社外)	秋山 治一																
監査役(社外)	松村 幸祐																

## 株式の状況 (2014年3月31日現在)

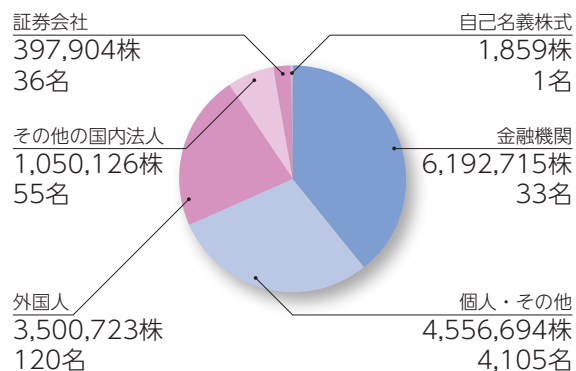
発行可能株式総数	57,000,000株
発行済株式総数	15,700,021株
株主数	4,350名

### 大株主

株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
みずほ信託銀行(株) 退職給付信託ソニー株003口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)	2,234	14.23
ピーピーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	1,530	9.75
みずほ信託銀行(株) 退職給付信託東京都民銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)	623	3.97
(株)三菱東京UFJ銀行	496	3.16
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	406	2.59
中山 邦子	400	2.54
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	375	2.38
(株)みずほ銀行	370	2.35
明治安田生命保険(株)	295	1.88
(株)エヌイーアイ	231	1.47

### 株式分布状況

所有者別株式数分布状況



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会：毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当：毎年3月31日 ※中間配当を実施するときの基準日は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	日本経済新聞
ホームページ	<a href="http://www.ukcgroup.com/">http://www.ukcgroup.com/</a>
証券コード	3156
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 (連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711

### 【お知らせ】

- 住所変更・単元未満株式の買取等のお問い合わせ先について  
お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に係る各種手続きについて  
下記の特別口座管理機関にお問い合わせください。  
①株式移転前の株式会社ユーエスシー株式をご所有の株主様  
〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
東京証券代行株式会社 事務センター  
TEL:0120-49-7009  
②株式移転前の共信テクノソニック株式会社株式をご所有の株主様  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
TEL:0120-232-711
- 未払配当金のお支払いについて  
支払期間経過後の配当金につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社本支店でお支払いいたします。ご郵送の場合は上記郵便物送付先までご送付ください。

株式会社UKCホールディングス  
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番2号  
ゲートシティ大崎イーストタワー15階  
TEL 03-3491-6575 FAX 03-3491-7825  
<http://www.ukcgroup.com/>

